

令和3年度 森づくりに関する施策の実施状況 (ふくいの森林・林業基本計画)



「育てる林業から、儲ける林業・稼げる林業に」

福 井 県

目次

	ページ
1. ふくいの森林・林業基本計画の全体像	1
2. 各プロジェクトの概要	2
3. 計画期間および数値目標と実績	5
4. 令和3年度の取り組み	
① 森を活かすプロジェクト	6
② 木を活かすプロジェクト	7
③ 森に親しみ、森を守るプロジェクト	8

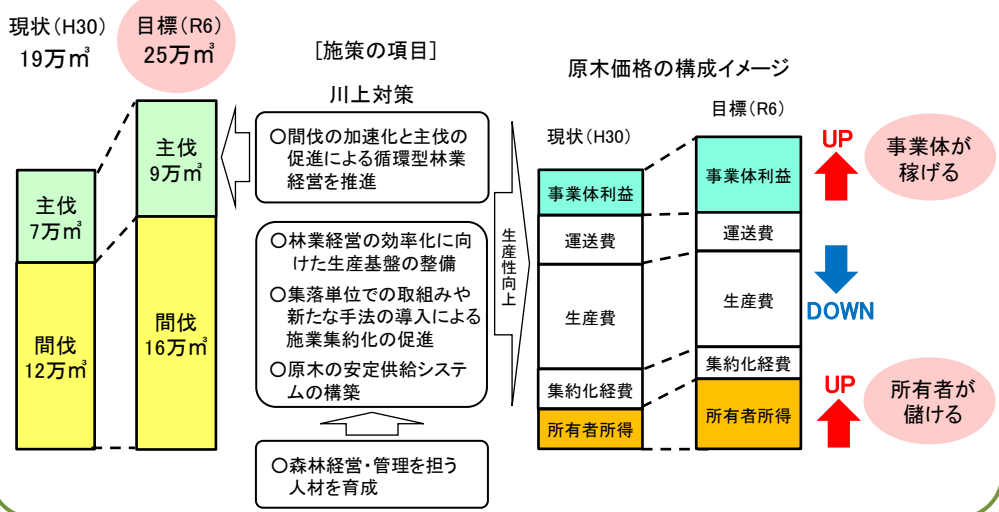
1 ふくいの森林・林業基本計画の全体像

＜儲ける林業・稼げる林業に向けて＞

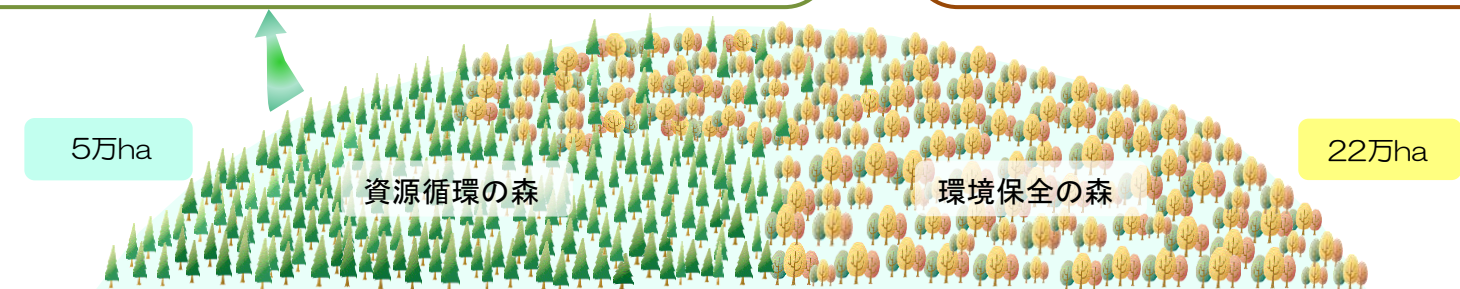
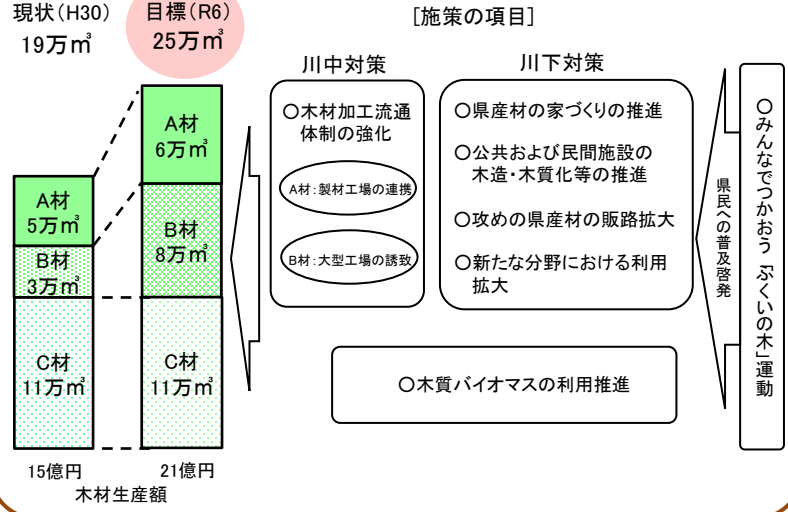
森を活かすプロジェクト

木を活かすプロジェクト

量 県産材生産量を1.3倍に増やします。
質 所有者の所得と事業体の利益を増やし、「儲ける林業・稼げる林業」を目指します。



価値 原木の価値に応じた需要を創出または拡大します。



森に親しみ、森を守るプロジェクト

恵 森林の多様な活用を通じて山村地域の活性化を図ります。

運動 全国植樹祭を契機に展開している緑と花の県民運動を推進します。

守 事前防災・減災対策を進めるとともに、獣害・病虫害等に強い森づくりを推進します。

山村の活性化

- 森林の多様な活用による山村の活性化
- 地域資源である特用林産物のブランド力強化

県民運動

- 緑と花の県民運動を永続的に展開
- 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進

防災・減災

- 災害等から暮らしを守る森づくりの推進

2 各プロジェクトの概要

1 森を活かすプロジェクト

～充実しつつある森林資源の積極的な利用～

◎利用期を迎えた森林資源を有効に活用するため、施業集約化の促進、生産基盤の整備等により間伐を加速化するとともに主伐・再造林による森林資源の循環利用を推進し、木材供給を拡大します。

<プロジェクト目標>

	(H30)		(R6)				
間伐材積	12万 ³ m	→	16万 ³ m	主伐材積	7万 ³ m	→	9万 ³ m

- ① 間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進
- ② 集落単位での取組みや新たな手法の導入による施業集約化の促進
- ③ 林業経営の効率化に向けた生産基盤の整備
- ④ 原木の安定供給システムの構築
- ⑤ 森林経営・管理を担う人材を育成



苗木供給体制の整備
(コンテナ苗)

2 木を活かすプロジェクト

～原木の価値に応じた木材需要の創出・拡大～

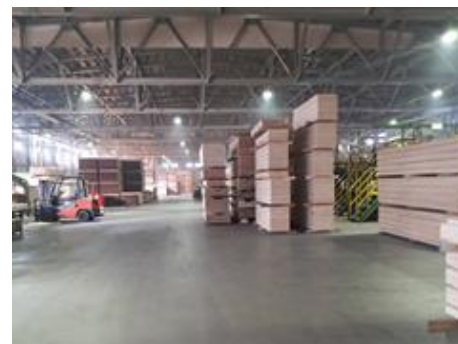
◎木材加工流通体制の整備や福井の技術を活かした商品づくりなどにより、県産材の価値を高め、国内外での新たな販路を開拓し、需要を拡大します。

<プロジェクト目標>

(H30) (R6)

県産材需要量 A材：5万 → 6万^m B材：3万 → 8万^m C材：11万 → 11万^m

- ① 木材加工流通体制の強化による県産材の利用拡大
- ② 県産材の家づくりの推進
- ③ 公共および民間施設の木造・木質化の推進
- ④ 攻めの県産材の販路拡大
- ⑤ 新たな分野における利用拡大
- ⑥ 木質バイオマスの利用推進
- ⑦ みんなでつかおう「ふくいの木」運動



大規模加工工場の誘致

3 森に親しみ、森を守るプロジェクト

～森林の多様な活用と森林保全の推進～

◎森林の多様な活用を通じて山村地域の活性化を図るとともに、災害等から暮らしを守る森づくりを推進します。

<プロジェクト目標>

新たな森林活用に取り組む団体 17団体

- ① 森林の多様な活用による山村の活性化
- ② 地域資源である特産林産物のブランド力強化
- ③ 災害等から暮らしを守る森づくりの推進
- ④ 緑と花の県民運動を永続的に展開
- ⑤ 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進



Satoyamaトレイル

3 計画期間および数値目標と実績

【計画期間】 令和2年度～令和6年度（5年間）

【数値目標と実績】

	項目	R3年度実績	R6年度目標
数値目標	県産材生産量	22.8万 m ³	25万 m ³
	林業生産額	27億円	30億円
プロダクト外目標	間伐材積	14.1万m ³	16万m ³
	主伐材積	8.7万m ³	9万m ³
	県産材需要量A材	5.7万m ³	6万m ³
	県産材需要量B材	3.3万m ³	8万m ³
	県産材需要量C材	13.7万m ³	11万m ³
	新たな森林活用に取り組む団体	8団体	17団体
個別目標	木材生産額	19億円	21億円
	特用林産生産額	8億円	9億円
	間伐生産性	5.8m ³ /人日	7m ³ /人日
	コミュニティ林業	215集落（累計）	300集落（累計）
	高性能林業機械の新たな導入台数	7台（累計）	15台（5年間累計）
	新規林業従事者	52人	100人（5年間計）
	県産材製品の県外・海外への販売額	1.5億円	2.0億円
	みんなでつかおう「ふくいの木」運動参加者	2,849人	33,000人
	針広混交林化	1,534ha（累計）	2,300ha（累計）
	緑と花の県民運動参加者	29,000人	95,000人

※表中の数字は、四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

4 令和3年度の取組み

① 森を活かすプロジェクト

- ・「ふくい林業カレッジ」では、早期就業希望者向けの短期コース(3カ月)で、7月末に4名が研修を修了し、長期コース(1年)では5名を育成
- ・施業地の集約化を図るコミュニティ林業は、集落での合意形成に向けた座談会や林業普及指導員の働きかけにより、30集落で木材生産組合を設立
- ・伐採と植栽を同時期に行う一貫施業や作業効率の良いコンテナ苗の植栽など造林の低コスト化につながる先進的な取組みを県内15カ所で開催(20ha)



林業カレッジ研修
(大野市荷暮)



主伐・再造林
(勝山市牛ヶ谷)



コンテナ苗植栽
(坂井市上久米田)

② 木を活かすプロジェクト

- 県産材を使用する住宅の新築およびリフォーム、民間施設の木造・木質化、木製品の導入に対し支援
- 木の温かみとステンレスの機能性を融合させたオフィスキッチンなど県産材商品（3商品）を開発（8月～3月）
- 県と福井県経済団体連合会との間で「ふくい県産材利用推進に関する協定」を締結（10月）
- 東京で開催された大規模建材展「ジャパンホームショー」への出展（11月）や台湾企業とのオンライン商談会を開催（3月）
- 仁愛女子短期大学の幼児教育を学ぶ学生と連携し、こども園や保育園での「ふくいの木づくり体験会」を開催（12月）



民間施設（電気工事会社）での利用
（福井市）



県産材商品の開発
（オフィスキッチン）



ふくいの木づくり体験会
（福井市の幼稚園）

③ 森に親しみ、森を守るプロジェクト

- ・森林空間の利活用のため、森林体験の取組みを検討する団体を対象に研修会を開催(7月・3月)
- ・香福茸の生産拡大に向けた生産技術研修会や農事組合等に対する新規生産の働きかけを実施
- ・航空レーザ測量のデータを活用し、山地災害の危険性の高い箇所を抽出・把握(1,430ha)
- ・既設治山施設の補修や機能強化を実施(14箇所)
- ・列状間伐により広葉樹の導入を促す針広混交林化など多様性のある森林へ誘導
- ・「みどりと花の県民運動大会」を開催し、幅広い世代を対象に、花の寄せ植え体験等を実施(6月)



森林体験研修会
(腕に装着した機器を用いて脈拍数等を計測)



治山施設(土留工)の補修
(越前町高佐)



みどりと花の県民運動大会